



GOOD NEWS とぎのこえ

War Cry

8月号

福音版
2026
August
No.2910

二〇二六年 八月一日 発行

明治二十八年 創刊

福音版・毎月一日発行 広報版・奇数月十五日発行

主はわたしの羊飼

樋口 光世

返らせてくださる。」(詩
編23編1〜3節)

「主は羊飼、わたし
には何も欠けることがな
い。主はわたしを青草の
原に休ませ、憩いの水の
ほとりに伴い、魂を生き

聖書で、人はよく羊に譬
えられます。羊は、まさに



人間の特性を譬える家畜と
言えます。第一に、羊は臆
病で脆弱です。第二に、迷
いやすい動物です。目が悪
いということもありますが、
羊は羊飼いに連れられて毎
日行き来している道を自分
では行き帰りもできず、す
ぐに迷ってしまいます。第
三に、とても頑固です。羊
は従順な反面、頑固で、羊
飼いに逆らって自分勝手に
進んで行き、群れから離れ
て危険な所に行つて自滅し
てしまうこともあるそうで
す。ですから、羊には必ず
羊飼、しかも、良い羊飼
いが必要なのです。

羊飼いの仕事は、「食べ
物を与える、必要なものを
与える、飼う、育てる、番
をする、導き、危険から守
る」ことです。水の乏しい
砂漠のような荒れた土地に
おいては、優れた羊飼いで
ないと、牧草と水を探し当
て、羊を養うことができま
せん。

最初に挙げた聖句の詩編
の作者は、「主は私の羊飼
い」だと告白しています。
これは主イエス様が羊飼
いで、私とその世話を受け
る羊だということです。自
分は弱い羊で、羊飼いなし
には決して生きることがで
きないと認めています。羊
は、安心しないと横になら

ないそうです。私たちは皆
全く疲れないということは
ありません。身体だけでは
なく、心が疲れることもあ
ります。また、生活の中で
不安や心配事があり、横に
なっても落ち着かなくて眠
れないということがありま
す。休むのが悪いこととき
れてしまうような現代社会
の雰囲気の中で、私たちは
どのようにして休息し、安
心して眠ることができ
しょうか。

詩編の作者は「主はわた
しを青草の原に休ませ、憩
いの水のほとりに伴い」と
言います。良い羊飼いのも
とで、私たちは必要な休み
安息を得ることができ
ます。「憩いの水のほとり」
とは、静かな、心の落ち着
く、しかも気持ちの良い快
適な空間をイメージします。
羊飼である主は、静寂な
水辺に私たちを導かれる方
なのです。「伴い」という
のは、寄り添いながら優し
く導くイメージです。決し
て強制的な、急かすような
導きではありません。

私たち人間も羊と同じよ
うに、非常に迷いやすく、
一人では生きていくことが
できない存在です。何かに
依存し、何かに頼らなくて
は生きていけない存在です。

この世の中は、あらゆる物
刺激、情報で溢れていて、
一時はそれを魅力的に感じ、
そういうもので心を満たそ
うとしてしまうものですが、
この世のものでは何も私た
ちを満たすことはできません。
良い羊飼であるイエ
ス様だけが、私たちを満た
すことができます。

人生は荒野であり、多く
の欠乏と苦しみがあり、病
気があり、死があります。
そのただ中にあっても、良
い羊飼であるイエス・キ
リストに出会うなら、その
導きにより、安息を得るこ
とができるのです。イエス
様はどんな時も共にいてく
ださいます。迷いやすい羊
にとつて、正しい道に導き、
常に伴ってくれる羊飼いが
いることほど、大きな安心
はありません。

イエス様を信頼し、従つ
ていくならば、その時その
時に応じて、豊かな青草が
茂る場所へと導かれ、真の
安息をもたらし水のほとり
へと、導かれていきます。

そして十分な安息を得、新
たな力を得て、魂が生き返
るという経験をするのです。
「主は私の羊飼いです」と、
今日、告白したいと思いま
す。

一人の人の救いのために ——神様に一步一步を導かれて



救世軍士官（伝道者）

司令官 西村 保 大佐

軍国女性部会長 西村 和江 大佐

今年5月1日に日本の救世軍のリーダーとして就任した西村保さん、和江さん夫妻。新たな任を受け止める中で率直な思い、信仰の歩み、そして夫婦で支え合いながら続けてきた士官としての働き——。試練の連続の中にも神様の導きを見いだしてきたお二人に、その原点とこれからへの思いを伺いました。

——リーダーとして立てられた今の率直なお気持ちはいかがでしょうか。

保…正直に言えば、「なぜ私なのですか」という思いはあります。もつとふさわしい方がおられるとも感じますし、英語も得意ではないので国際的な働きに不安もあります。それでも、これは自分の選択ではなく、神様からの任命だと受け止めています。父も救世軍の士官として、いつも「任命ですから」と言って、新たな働きに向かっていました。

和江…私も「私でいいのでしょうか」という思いはあります。けれど、神様が召してくださいるなら従うしかない、士官として献身した初心に帰って、主にお委ねするだけだと思っています。

——イエス様との出会いについて教えてください。

保…士官の家庭に育ち、幼い頃から聖句を暗唱していました。子どもの頃に日めくりの聖句カレンダーで覚えた御言葉は、今も忘れません。大学時代に一人で東京に出て辛かった時、「望みをいだいて喜び、患難に耐え、常に祈りなさい」（ロー

マ人への手紙12章12節、口語訳聖書）という、そのカレンダーにあった言葉が心に浮かんできて、大きな支えになりました。本当の意味で御言葉の力を実感したのはその時でした。

和江…私は、クリスチャンだった祖母に誘われて、京橋小隊（教会にあたる）に行つたのがきっかけです。小学校二年生くらいで通い始めてすぐの頃、日曜学校のクリスマス会で自分にもブレゼントが用意されていたこと、名前を呼んで渡してもらったことがとても嬉しくて、それ以来、救世軍は私にとって大切な居場所になりました。十代の頃、学校でいろいろな経験をして落ち込むような時も、どんな時も温かく受け止めてもらえる場所でした。

そういう温かさの中で自然とイエス様を信じ、十四歳で兵士（信徒）になりました。高校受験を前にした不安な時期には、「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」（コリントの信徒への手紙一10章13節）

という御言葉を友人が教えてくれて、神様が支えてくださるので大丈夫だと励まされ、受験に向かうことができました。

——士官への導きはどのようなものでしたか。

保…大学一年生の時、士官として召されていることを感じましたが、すぐには進めませんでした。

大学卒業後、社会福祉の施設で四年間働き、本当に士官として召されているのか、祈りに専念したいと思い、退職して一年間、親元で暮らしていました。ある日、ジャパン・スタッフ・バンド（J・S・B）の練習帰りに、自転車事故に遭いました。車にぶつかって飛ばされたんですが、擦り傷程度のケガですみました。自分では、うまく避けたな、と思ったんですが、そうじゃない。神様が守ってくれたんだですね。「私の命は自分のものではない」と示されました。その後、ルカによる福音書の「彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った」（5章11節）という御言葉を通して最終的に献身を決意し、一九九三年に士官学校に入

りました。

和江…私は高校生の頃は、毎週木曜日はユースの集まり、土曜日は小隊でバンド練習、日曜日には聖別会（礼拝）に出て、昼食会、野戦^{※2}、救霊会^{※3}、その後、夕飯まで小隊で過ごすという日もありました。救世軍に通うことは生活の一部で、本当に楽しかったですね。

そんな高校二年生の冬に出席した新年の集会で、ある方が「救世軍の病院に救世軍人の看護師を与えてください」と祈られました。その当時、進路は全く別のことを考えていたのですが、その祈りを聞いた時に、救世軍の病院で看護師として働きたい、と思ったのです。そして資格を取り、大学病院で働き始めました。三年目、いつ救世軍の病院に転職しようかと考える中で、同時に、士官になる道もあるのかなと意識し始めました。聖別会で日さんが、「この小隊から献身者を起こしてください」と祈られたことを通して、それは私のことなのかなと思ったのです。それでも、自分の思いと献身を天秤にかけるように揺れていましたが、自分の選択で歩もうとした時にた

くさん失敗もして、「自分の考えや計画ではなく、すべてを神様にお委ねしよう」と決心し、二十四歳で士官学校に入りました。

——士官となられてからの歩みをお聞かせください。それぞれに士官となつてから結婚されましたね。

保…彼女とはJSBで知り合い、後に結婚に導かれました。私は大学生の時からJSBに加わり、士官にな

って栃木県の佐野小隊にいた時も、東京まで練習に通っていました。

和江…私も献身前にJSBで四年間奉仕していました。今もプラスバンドや賛美のことを二人で語り合っています。

保…士官生活については、実は試練の連続でした。結婚前、私は東京で子どものための施設の施設長として、職員の皆さんに助けられながら働きましたが、体力的



広島小隊で、ウエリントン・シタデル・バンドのメンバーを迎えて。2007年(前列左端)

にきつく、体調を崩してしまいました。結婚して広島小隊に転任になりましたが、その直後、施設の社会的な問題への対応など、厳しい状況に向き合うことになったのです。でもその時期に、ニュージールランドの救世軍から来日したウエリントン・シタデル・バンドを招いて、集会和コンサートをおこないました。小隊の皆さんと心を合わせて取り組んだことは深く印象に残っています。産まれたばかりの長男をおんぶしながら、夜な夜な集会の準備をしました。大変でしたが、そのただ中で神様に支えられていることを強く感じる時でした。

和江…大変な時期でも、「今は無理だから後にしよう」と思うことはありませんでした。長男を授かり、子育てをしながら小隊や施設の働きを担う中でも、いつでも守られていると感じていました。一つひとつの出来事が神様の備えてくださった最善の時だったと思います。これまで、保育園や施設でのチャプレン、また、医療の働きに長く関わらせていただきました。救世軍の病院でチャプレンとして十年間働くことができたのは、

今年で結婚二十年を迎えました。子どもたちの成長は何よりの励みであり支えです。次の世代に何を残せるのかを祈りつつ考えながら、良いものを手渡していきたいと願っています。

——家庭と働きとのバランスをどうとってこられましたか。

和江…長男は今年JSBに加わり、次男は高校でスポーツに全力で取り組んでいます。それぞれに自分がやりたいことを見つけてがんばっているのを心から応援しています。家事や育児は夫婦で分担し、一緒に悩みながらやってきました。私のほうが会議が多い時もあり、夫が夕飯をつくることもよくあります。



家族で

保…施設長の頃は夜間に呼び出しがあれば飛び出して行き、家を留守にするようなことも多かったのですが、今は私も家庭での役割が増えました。互いに補い合って歩んできたと思います。

——『ときのこえ』読者へのメッセージをお願いします。保…「福音のためなら、わたしはどんなことでもします」(コリントの信徒への手紙一9章23節)という御言葉が心にいつもあります。「福音」、それはイエス・キリストによる救いの約束です。救世軍のあらゆる働きを通して神様の愛が伝わっていくようにと願っています。和江…神様は私たちが何ができるから愛してくださいるのではなく、ありのままを受け入れてくださいます。その神様に依り頼んでいます。救世軍の中にはいろいろな活動がありますが、大切なのは、一人ひとりの魂に向き合うことです。様々なニーズをもっておられる人々に、イエス様の愛を模範として仕えていく。私たちがリーダーとして、神様の導きを聞き取り、従っていけるよう祈っていただければ幸いです。



世界をみつめて

〈フィリピン〉ミンダナオ島地震被災地支援

フィリピン南部のミンダナオ島沖合で、6月8日にマグニチュード7.8の強い地震が発生しました。この地震は、ミンダナオ島各地で甚大な被害と混乱をもたらしました。住民は避難を余儀なくされ、家屋やインフラに被害が出ているほか、電気や通信などの生活必需サービスの停止にも見舞われています。6月15日時点で、地震、津波とそれに伴う土砂崩れにより、死



者65人、負傷者1,400人、行方不明者36人にのぼっています。約14,200人が37か所の避難所に避難しており、約57,300戸の家屋、多数の橋や道路が被害を受けたとのことです。

現地の救世軍のチームは、地震発生を受けて直ちにジェネラル・サントス市と近隣のサランガニ州の行政区域を訪問し、避難民や地方自治体職員、キャンプのコーディネーターと面会して、ニーズ調査を実施しました。これを受けて、6月20日頃には、ラガオ、ブアヤン、サン・イサイドロで900世帯分の食料、水、衛生用品の配布と、心理的、社会的支援を提供することができました。救世軍は、最も支援を必要とする人々に確実に届くよう、これからも他団体とも緊密に連携して活動を続けます。

〈コンゴ民主共和国〉エボラ出血熱感染拡大への対策支援

コンゴ民主共和国（DRC）とウガンダ共和国では、5月半ばに、ブンディブギョウイルスによるエボラ出血熱の新たな発生が確認され、5月17日に世界保健機関（WHO）が、「国

際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」に該当すると宣言しました。6月15日現在、DRCで感染確認者782人、死者181人が報告されており、東部のイツリ州が最も深刻な影響を受けています。北キブ州及び南キブ州でも症例が報告されています。ウガンダでは、死者2人を含む感染確認者19人が報告されています。

救世軍は、予防、衛生促進、地域社会と医療従事者の保護を支援するため、DRCで4つの緊急対応プロジェクトを策定しました。イツリ州における予防と衛生促進の支援、北キブ州及び南キブ州における地域社会と医療従事者の保護、キンシャサにある13の救世軍の医療施設に対する防護用品の提供です。DRC南東部のカレミでの、感染リスクの予防プロジェクトも検討されています。ウガンダの救世軍も、同国での流行に対応するため、追加のプロジェクトを準備しています。

状況は急速に変化しており、保健当局によると、流行はDRC内の新たな保健区域へと広がっているとのことです。予断を許さない状況の中、救世軍は国際的なネットワークを通じて、最も必要とされる場所に実際の支援と思いやりあるケアを提供し続けます。



救世軍とは？ What is the Salvation Army?

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

初期は「キリスト教伝道会」という名称でしたが、1878年、ブースはじめ指導者たちは、「我々は、キリストの福音を常に宣べ伝える軍隊“ザ・サルベーション・アーミー”である」というインスピレーションを受け、日本語で「救世軍」と訳されるこの名称が生まれました。それに伴い、聖書のテモテへの手紙二章3節に「キリスト・イエスの立派な兵士として……」とあるように、社会悪と闘い、人々の魂を救うための迅速な行動に最も適したものとして、軍隊流の組織をとるようになりました。日本では、1895（明治28）年に英国から士官（伝道者）が派遣されて活動が始まり、131年目の歩みを進めています。

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ （子ども向け紙面）

左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます！ 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください！



救世軍公報 ときのこと

発行日 福音版 / 毎月1日、広報版 / 奇数月15日
定価 福音版 / 1部40円、広報版 / 1部100円
（税込）クリスマス特集号（12月1日号） / 1部100円
振替 00180-5-4400
発行兼 救世軍
印刷人 代表者 西村 保
編集人 平本 祐子
発行所 救世軍本營 <https://www.salvationarmy.or.jp>
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
電話 03-3237-0881（代表）
Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org
印刷所 有限会社コーチ印刷



聖書は新共同訳を使用しています © 共同訳聖書実行委員会 © 日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。

【取り扱い支部】

救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本營（左記）もしくは、上記救世軍にご連絡ください。
・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。
・『ときのこと』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。